

青森県八戸市立轟木小学校

(様式 4-2 : 令和 3 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度

実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称：交通環境学習					
2. テーマ：ふるさと轟木の交通の未来を考える					
3. 実施教科：生活・総合					
4. 関連単元：社会・国語					
5. 実施単元数：6					
6. 学年	1～6年	7. クラス数	4	8. 生徒数	38
<p>9. 実施内容</p> <p>○活動、実施計画をもとに、下記のような体験、見学を学年ごとに計画し、実施した。(別紙参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> R3.12.14 (3, 4年)「轟木小学校の周りの乗り物について調べよう」 ・八戸市営バス乗車、青い森鉄道乗車、青い森鉄道八戸駅、三沢駅見学 R3.12.15 (1, 2年)「バスに乗って、バスについて調べよう」 ・八戸市営バス乗車体験、旭ヶ丘営業所での見学 R3.12.15 (5, 6年)「轟木小学校の周りの乗り物の役割について調べよう」 ・八戸市営バス、青い森鉄道に乗車、東北新幹線八戸駅、青森駅見学、東北新幹線八戸青森間体験乗車 1, 2年・・・「学校前のバス停について調べよう」 ・乗っている人にインタビューをする、バスのよいところさがし 5, 6年・・・「轟木のバス便を増やすための地域の方の活動について調べよう」 ・4月から、バスの便が増える。地域の人のために、市役所などに出向いて働きかけた方がたのお話をきこう。 3, 4年・・・「交通について歴史を学ぼう」 ・八戸市博物館の学芸員の方々から、この地方の交通の歴史をオンラインで聞き、学ぶことができた。たくさん資料も見せてもらった。 <p>○その後、各学級ごとにまとめた。</p>					

10. 学習のながれ

○別紙のとおり

11. まとめ

<活動計画に記載した期待される成果から>

1年・・・ふるさと轟木を走っている公共交通について名前など正しく言えるようになる。

⇒八戸市営バスの乗車体験を通して、学校の周りを走っている乗り物について興味をもち、その名前を確認し、言えるようになった。運転している人への仕事ぶりを見て、共感を覚えていた。

2年・・・公共交通に乗れるようになる。あるいは乗り方がわかる。

⇒八戸市営バスに初めて乗った子どもがほとんどだった。学校近くのバス停から旭ヶ丘営業所までは約1時間かかったが、その間、バスの車内の仕組みに興味をもったり、乗車する人々を観察したりする社会体験ができた。乗車の方々からよい勉強をしていることをほめてもらい、子どもたちは嬉しそうだった。

3年・・・公共交通に携わる人々の仕事について理解が深まる。

⇒青い森鉄道の駅長さん（八戸駅、三沢駅）たちから直接お話をきき、鉄道のいろいろについて教わるのができた。実際に乗ることで、話の内容は生きてくる。切符を売る内部の部屋も見せていただき、駅員の仕事を肌で感じる事ができた。はたらくことのよさを体感できた。

4年・・・八戸市や青森県のなかのふるさとの位置づけがわかる。

⇒青い森鉄道に乗り、八戸駅では、県内の各場所や岩手県につながる起点となっていることを理解できた。様々な電車が通っていて、その電車を正確に走らせること、また正確に案内することの大切さを理解できた。さらに、青い森鉄道のネーミングから、電車は青森県を代表する電車であることがよくわかった。

5年・・・ふるさとの主要産業と公共交通の関係がわかる。他とのつながりを理解する。

⇒学校の近くを走る青い森鉄道では、貨物列車が頻繁に走っているのが見える。貨物車両は長く、中には多くの荷物を載せているのもわかる。青森県内だけではなく、北海道や青森県以南の県とつながりがあることも予想できた。毎日の風景が遠くとつながり、人々の暮らしを支えていることを驚きと嬉しさで感じていた。

八戸青森間を往復で東北新幹線の乗車を体験した。多くの子どもが初めて乗車し、新幹線という乗り物の素晴らしさを体感し、その新幹線が学校から見えるということも大きな自信や学校自慢につながっていた。

6年・・・地方公共団体、政治などとふるさとが密につながっている仕組みを理解し、生活に役立てようとする。

⇒東北新幹線に、八戸駅や青森駅で駅長から説明をきいたあとに乗ると、交通機関としての新幹線の大切な役割がよくわかった。乗車させる JR の方々の真剣さ、乗客の安全に心配りをする丁寧さ、あらゆる努力が積み重なり、毎日の新幹線が走っていることを理解していた。修学旅行では何気に乗っていたが、公共交通機関として、日本のトップである乗り物は人々の努力のたまものであることを感じていた子もいた。

⇒学校の校門前のバス停は、朝夕2本のバスが通るだけである。これまでは南部バスが五戸から学校前を通り、町に向かっていたが、南部バスが撤退し、八戸市営バスが運行することになり、市営バスでは、五戸～八戸線が廃止となった。轟木前を通るバスがなくなり、ただでさえ、バスの本数が少ないことを危惧した町の方が（鈴木氏）市長や市役所、市営バスに人々の嘆願書やアンケートに基づいたお願いを何度もし、とうとう政治を動かし、R4年度から轟木にバス停とバスの本数を増やすことに成功した。このことを子どもたちは知り、町の方々が人々のために頑張ってくださいをありがたいと同時に、あきらめない心意気と真剣さを学ぶことができた。一方、市営バスの福祉的なことも政治のつながりで学ぶことができた。

12. おわりに

11月という遅い時期に計画し、コロナ禍もあり、12月にやっと体験やお話をきくことができた。長いスパンで行えればよかったが、短い期間で凝縮して調べることができた。

日常の子どもたちは、保護者の車で移動することが多いが、今回は、歩いて、バス停に行き、バスに乗り、駅で待ち、鉄道に乗り、いつもより多くの時間をかけて、交通機関にのるという、手間のかかることであっても、心に残る体験になったことと思う。乗り物の窓から見える風景は子どもたちにとって忘れがたいものになったであろう。ことに、自分たちの学校が見えれば、それは夢のような楽しさだったと思う。子どもたちのふるさととは乗り物とともに、新しい未来を築いていければよいと思うし、今回の学習がそのきっかけになっていくものと信じている。

社会や環境をよりよく変えようとするために、まず、知って体験していく。大人に成長していく段階で、子どもたちがいつもふるさとの未来に心を置いてくればよいと願う。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

令和3年11月26日

八戸市交通部
旭ヶ丘営業所長 様

八戸市立轟木小学校
校長 松橋 淳子

旭ヶ丘営業所見学のお願い

晩秋の候、貴職におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では、モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる支援制度を利用し、子どもたちの社会性の育成と公共施設への理解を深めるため、子どもたちが学校の周りを走っている八戸市営バスに乗車したり、市営バスが集まる営業所を見学する計画をもちました。

つきましては、下記のとおり、旭ヶ丘営業所を見学したいと思います。よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。

記

1 日時

令和3年12月15日（水）
10時00分から11時00分

2 目的地

旭ヶ丘営業所

3 対象

轟木小学校1、2年児童13名 教職員 3名

4 内容

- ・学校近くのバス停からのバス乗降車体験
- ・営業所でのバス見学、バス路線
- ・運転手さんの仕事内容、質問 等

5. その他

- ・後日、担当者より打ち合わせの電話をいたします。その際はよろしくお願ひします。

3・4年 轟木の周りを走っている乗り物について調べよう (計画案)

「新しいバス停から、バスの乗り物について考えよう。」

1 時間目…学校前のバス停について調べる。(時刻表の見方・バスの乗り方)

2 時間目…バスについて調べる。(路線図・乗り方・歴史など)

3 時間目…バス会社の見学の計画を立てる

4 時間目…バスの乗車体験とバスの営業所の見学・バス会社の方の話を聞く
(バスを乗車しながらバス停の名前・市内の様子の観察)
赤畑(8:41発・旭ヶ丘営業所行き)
→旭ヶ丘営業所見学・バス会社の話を聞く→
旭ヶ丘営業所(11:24発・多賀台団地行き)

5 時間目…他の交通について調べる
(青い森鉄道・八戸線)

6 時間目…八戸駅見学・乗車体験

8:15 学校発→徒歩→

→8:53(赤畑発・十和田観光電鉄)→八戸駅(着9:18)

→八戸駅見学

- ・ 駅員さんやはち子さんの話を聞く
- ・ 電車や新幹線の乗り方, 乗車券の買い方など
- ・ 駅内やホームの見学
- ・ 電車や新幹線の見学
- ・ 貨物列車についての話を聞く

→八戸線(乗車体験)(発12:33※)→鮫駅(着12:54※)

→鮫駅(発13:44※)→八戸駅(着14:53※)

→青い森鉄道乗車体験八戸駅(発14:29)→陸奥市川駅(着14:35)

→陸奥市川駅(発14:53十和田観光)

→赤畑(着14:55)→徒歩→学校着

7 時間目…見学して分かったことを地図や新聞にまとめる

8 時間目…学校前のバス停(地域との関係)について考える

轟木小学校の周りの乗り物の役割について調べよう（5、6年企画書）

1. 目的

- 学校の周りを走る乗り物について調べ、その役割や人々の願いを考える。
- 学校の近くを走る東北新幹線について知ることで、自分のこれからの生活に生かそうとする。
- 新幹線に乗車する体験をし、新幹線の発着する駅の役割、働く人々や新幹線を利用する人々の思いに気づく。

2. 日時

令和3年12月15日（水） 10:00～11:30
（八戸駅での時間）

3. 対象

八戸市立轟木小学校5、6年児童15名 引率教員2名

4. 内容

<質問事項>

○八戸駅について

- ・駅の歴史
- ・利用状況
- ・駅舎の建物、場所
- ・JRの名称
- ・利用状況
- ・駅名の付け方
- ・乗り換えの方法
- ・金額
- ・働く人々
- ・駅員さんについて
- ・福祉（バリアフリー）等

○新幹線

- ・新幹線の名前の由来や色
- ・在来線とのちがい
- ・新幹線の機能
- ・東北新幹線
- ・北海道新幹線
- ・運転手の仕事
- ・新幹線の未来 等

○体験として

- ・八戸駅で駅の方からお話をききたい。
- ・駅構内を歩いてみたい。
- ・切符を使って、新幹線に乗り、学校が見えるかどうか確認したい。
- ・青森駅との違いも体験したい。

5. その他

- ・この学習はモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度を利用しているので、資料があればいただきたい。
- ・後日、担当者から連絡いたします。その際はよろしく願いいたします。

【低学年テーマ】

春の町探検で見た
八戸市営バスに乗って、バスについて知ろう

八戸市営バスの皆様にお世話になって、轟木の公共交通の環境と、未来の生活について学習しました。見学・体験・調査をして、バス営業所・運転手さんの仕事やバス路線、利用する人たちについて、新しく知ったり考えたりすることができました。

(1) 旭ヶ丘営業所見学

① 「赤畑」のバス停から
旭ヶ丘営業所行きのバスに乗って移動

- ・路線バスに乗ることが初めての児童も多く、事前にバスの乗り方について学習した。
- ・バスの中では、乗客の誰もが快適に過ごせるように、「乗車マナー」を守って移動することができた。
- ・自家用車からとは違う八戸の町の景色に静かに目を輝かせていた。
- ・たくさんの方が利用していることが分かった。



② 「旭ヶ丘営業所」に到着

- ・どの児童も整理券をしっかりと持ったまま乗車でき、降りるときに一人ひとり運賃と一緒に出すことができた。
- ・初めての体験に喜ぶ児童が多かった。「降車ボタン」を押すことができた児童は大満足していた。



③ 旭ヶ丘営業所見学

- ・営業所の仕事、運転手さんの仕事、バスについて、バスの利用方法、路線、お得な情報など、丁寧にくわしく教えていただいた。
- ・様々な見学・体験をさせていただき、児童は知りたかったこと、新しく知って驚いたこと、これからのバス利用についての考えなど、たくさんのお土産を頭と心に入れてくることができた。
- ・学習メモの用紙に、たくさんメモをすることができた児童が多かった。



体験・見学の様子



【バスを発見！115台あるそうです】



【質問にくわしく答えていただきました】

<運転前にする仕事について>



【体温とアルコール調べ 体験】



【健康・安全運転に気を付けているんだね】



【バスにガソリンを入れる 見学】



【タンクローリー車がガソリンを補充中】



【バスの洗車 体験（清掃・消毒）】



【大きな回転するブラシの中を通りました】

バス新聞

どんだじぶと

おさげとわねつのチェックをし
ます。バスをあがります。そのつぎ
にオイルを入ります。うんてんし
ヤンはいしうけんめいな気もち
でやります。朝の五時三十五分か
り夜の十一時(ら)まではたらい
ているそうです。うんてんし
ヤンがすえちがったとヤンに手
をあけるのは本当はダメだけ
と、どうしてもやりたくなくてし
まうのです。一日すとは、かりませ
ん。午後の三時ま
で休みます。三時
からやります。
だいたい百キロ
走ります。一日
だいたい二人入
のせます。



二年生
たんけん

バスやくだろぞー

バスの正のまから、
ヒーターが出てくるの
で、冬でも暖かいの
です。バスは、のりか
店に行くときなどに
やくにたちます。
まじをしめていてもか
んやがでるとうぐ
がバスの中にあるの
で、おんせんにもうご
かすことができます。つかめ
るぼんや、ツボがな
るの、バスはやくた
ります。



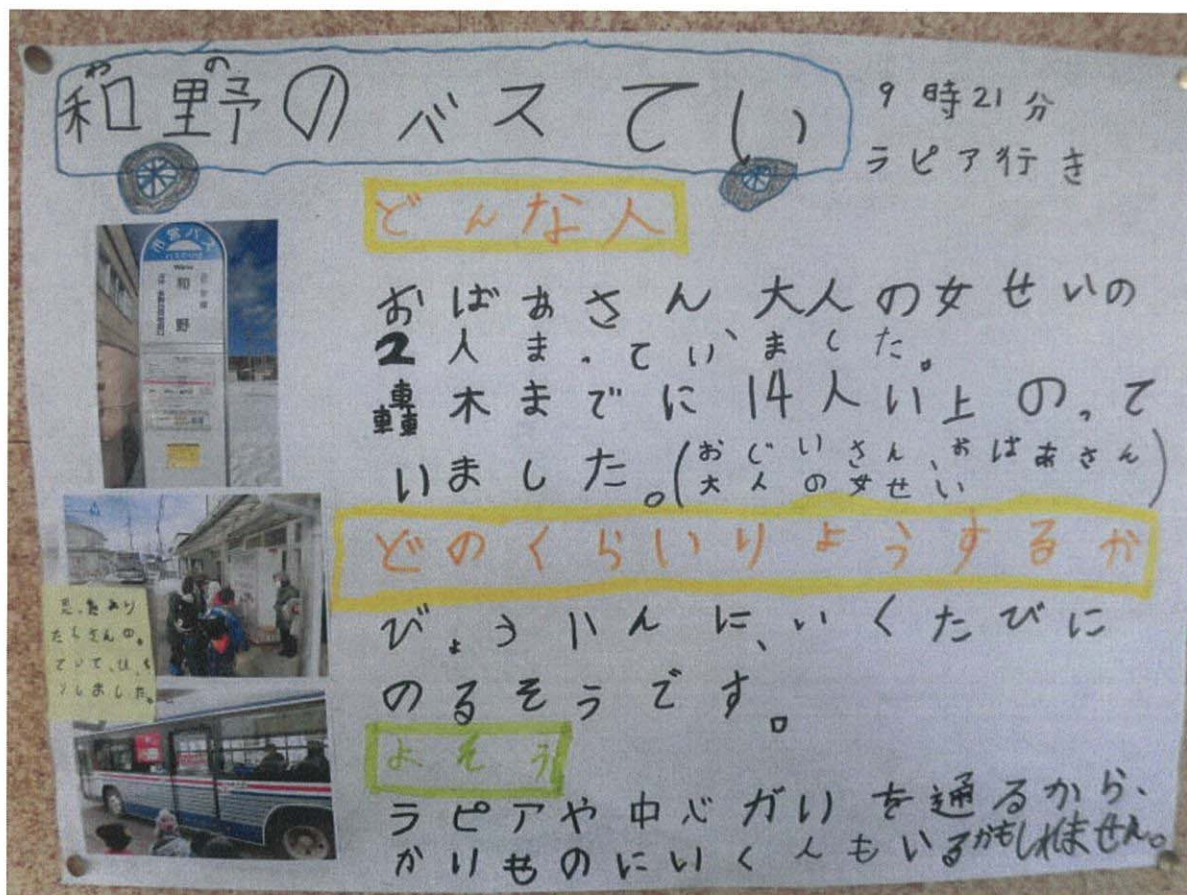
ガムス・フコサ

バスのことがたくさん
の、よびた(すく)の
小学校の一年生
の、ガムス・フコサ
バスの中、天いうかべもちでか
い、うしろとく、かさ、か、
バスの中は、すが、か、木、も、
な、か、て、ま、か、い、せ、い、
バスが、あ、く、れ、る、り、ん、と、赤、い、
あ、く、れ、く、な、い、前、で、い、た、り、ん、
一日に、二、ま、ん、ん、の、せ、て、る、の、
が、か、か、く、り、し、た、よ、し、た、り、ん、
一、れ、か、ら、も、あ、し、ら、い、と、を、え、ら、
し、て、く、だ、さ、い、。



(2) 和野・轟木のバス停の乗車人数調査

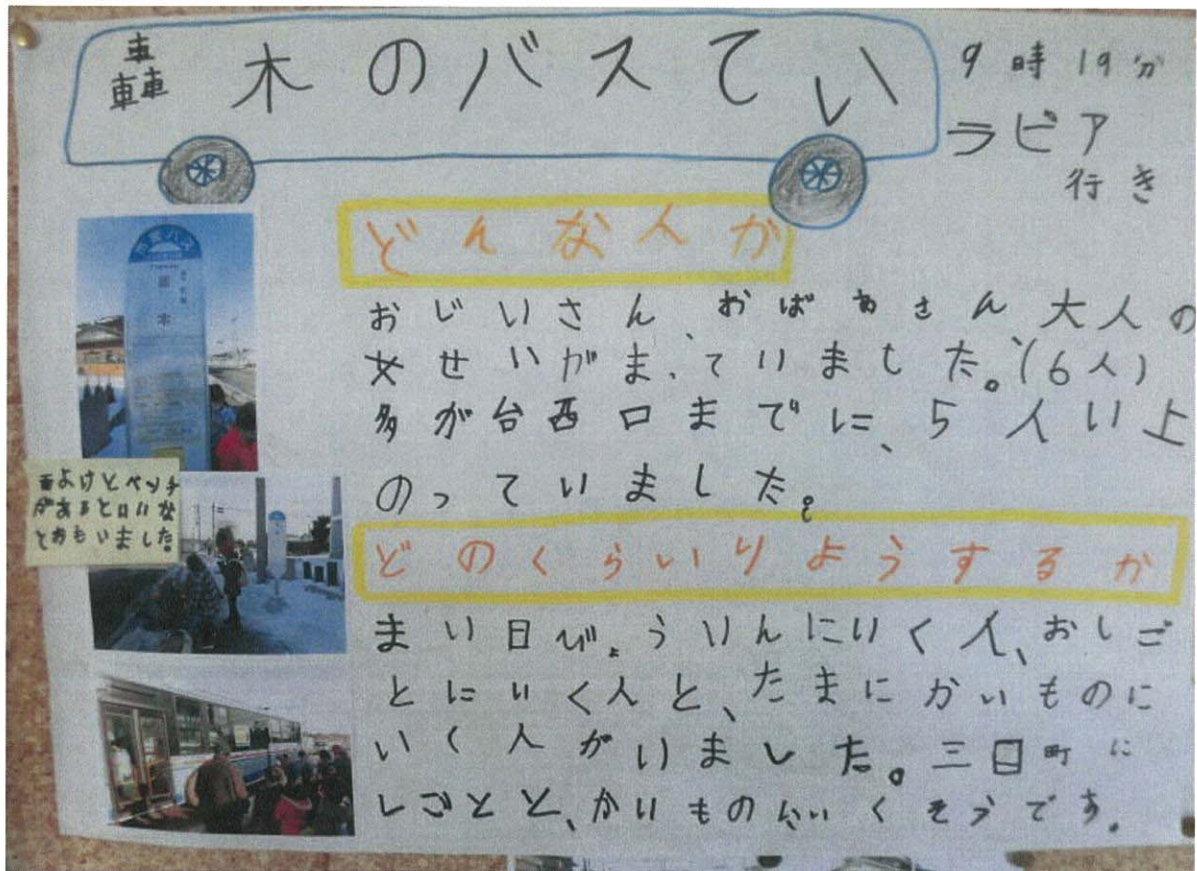
【和野のバス停】<バスを利用する人にインタビュー>



<調査して分かったこと>

- ・予想していた人数より、たくさんの方が和野のバス停までに乗っていて、バスを利用する人が多かった。
- ・バスを利用する人は、バスが到着する時刻が分かっているので、その時刻に合わせて集まってくる。
- ・三村商店前があるので、ベンチに座ったり三村商店の屋根のひさしで雨風をしのいだりしながら、バスを待つことができるということ。
- ・轟木に住んでいる人ではなく、用事がある轟木に来ていた人も利用していること。
- ・バスに乗っている人たちが、わたしたちに手を振ってくれたり、インタビューに快く答えてくださったりして、やさしかったこと。

【轟木のバス停】 <バスを利用する人にインタビュー>

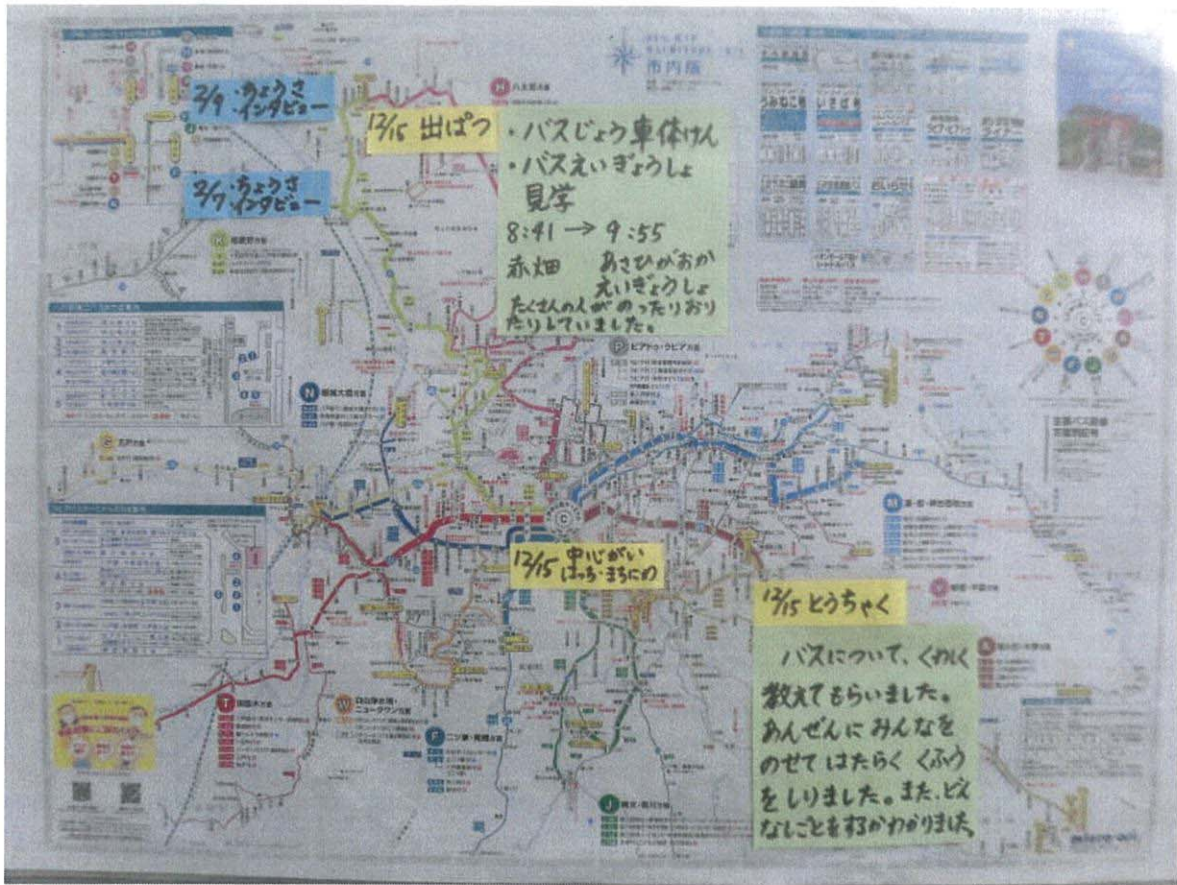


<調査して分かったこと>

- ・ 予想していた人数より、たくさんの方が轟木のバス停からバスを利用すること。
- ・ 轟木のバス停の次に、和野のバス停に行くこと。
- ・ バスを利用する人は、バスが到着する時刻が分かっているので、その時刻に合わせて集まってくること。
- ・ 八戸市中心街（三日町）を通過して、ラピアショッピングセンターまで行くバスなので、お仕事や買い物、病院に行くためなど、毎日利用する人がいるということ。
- ・ 寒い中、バスを待つ間、歩道と道路を分ける縁石のところに腰を下ろして待つおばあさんがいた。雨除けやベンチなどがあると、いいなあと思った。
- ・ バスに乗っている人たちが、わたしたちに手を振ってくれたり、インタビューに快く答えてくださったりして、やさしかったこと。

<学習に利用した八戸市営バスマップ>

- ・主要路線に色が付いてあって、分かりやすい。
- ・目的地に行くためにどのバス停を利用すればいいのかわかる、調べるのにとっても使いやすかった。



轟木の周りを走っている乗り物について調べよう

(1) 青い森鉄道見学

①赤畑のバス停から陸奥市川駅にバスで移動。

↓ (乗車体験)

②陸奥市川駅見学

陸奥市川駅では、八戸駅の駅長さんが待っていてくださり、ワンマン電車のルールや駅構内の工夫などを教えてくださった。

↓

③八戸駅見学

八戸駅に到着後、乗ってきた電車内で、車内の様子や運転士さんの仕事などについて教えていただいた。そして、運転士さんの点呼の様子を見学。最後に、駅の改札に移動し、事務室内での仕事や改札での仕事について教えていただいた。三沢駅行きの電車内から、轟木小学校探しも行った。

↓

④三沢駅見学

三沢駅は、海外の方々の利用が多いことから、英語や中国語での表記案内や、英語での時刻表など三沢駅での工夫について教えていただいた。帰りの電車は「11ぴきのねこ」列車に乗車する子どもたちのすてきな思い出になった。また、帰りの電車内から轟木小学校を見ることができた。

↓

⑤陸奥市川駅から赤畑までバスで移動。(乗車体験)



陸奥市川駅での様子



八戸駅での様子



三沢駅での様子

(2) 調べたことをまとめよう。

3年生は、自分たちが見つけてきた駅での工夫や仕事の様子の中からみんなに教えたいことをひみつカードに書き出した。その後、グループごとに話し合い、「駅のひみつベスト10」の形にして、観日に発表した。

＜八戸駅のひみつ ベスト10＞	
ひみつ①	ひみつ②
電車は20の年が こころ。	電車に乗れる人数は多い。
大人は大人な こと、こころ。	電車の重さ1100t-40tほど ある。
電車は14m-65。	電車の21mの高さのスピード 120km-100km。
電車のスピードは 早い。	前のほうが遅い。
夕方は遅いから 早い。	もつと八戸行のバスは 早い。

陸奥市川と三沢駅のベスト10!	
1	全国の駅に行けるようにしている。(赤畑のたいまつが八戸に行く)
2	海外の人にも分かるようにしている
3	三沢駅は1894年にできその当時は古閑木駅だ。
4	ワンマン列車がく駅にある。
5	三沢駅にはおんないする所もある。
6	むつ市川駅には電子かんばんがある。
7	三沢駅では、ぶき売所には、かならず一人いる。
8	電車のドアを開ける時にはボタンもある。
9	11ぴきのねこの電車がある。
10	むつ市川駅には木がある。

◎ 学習の様子

○ 体験学習【青い森鉄道（八戸駅・三沢駅）】



【陸奥市川駅にて切符の買い方を教わる】



【陸奥市川駅にてワンマン運転やホームの工夫
について学習】



【八戸駅にて運賃箱の仕組みを知る】



【三沢駅にて線路や信号機などの安全に関わる
内容について学習】

○ 学習内容を発信

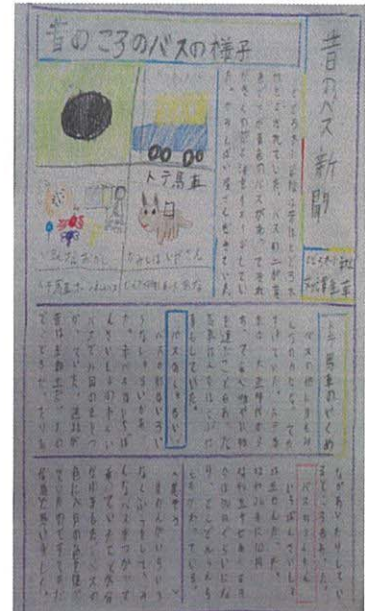
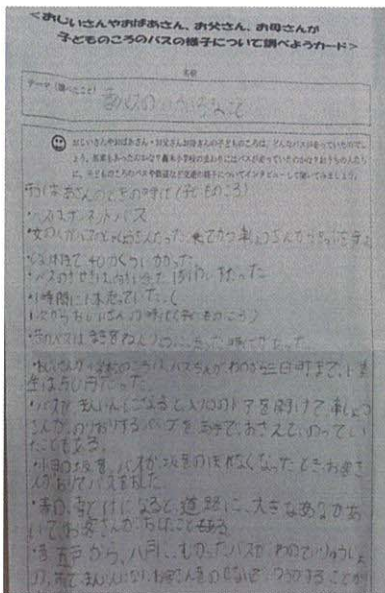


(3) バスについて調べよう。(バスの移り変わりについて)


博物館の方から「ちょっとむかしのバスのはなし」のテーマでオンラインを使って、八戸市のバスの移り変わりについて教えていただいた。その当時の八戸市の様子分かる写真も一緒に提示して下さったので、バスの歴史と暮らしの様子も結びつけて考えていた。そのため、子どもたちはさらに調べたいことを見つけて調べた。昔の運賃や利用者数などにも興味を持ったので、市営バスの方が「60周年記念誌」を貸して下さり、さらに詳しく調べることができた。また、家族の人たちが子どものころのバスの様子についてインタビューをして、分かったことを年表や新聞などにまとめて、2年生に紹介した。



オンラインの様子



◎バスの移り変わり年表

	90年前	80年前	70年前	60年前	50年前	40年前	今
分かったこと	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗客は馬車引の馬車に乗って乗る。 乗客は馬車引の馬車に乗る。 乗客は馬車引の馬車に乗る。 乗客は馬車引の馬車に乗る。 	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 	 <p>馬車引のバス(馬車引車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。 馬車引の馬車に乗る。

公共交通機関と環境・福祉・政治の働き

1 轟木地区の現状

轟木地区にバス停が増えるということを知り、どのような人たちが公共の乗り物を利用して
いるのかやバス停を増やすまでの過程に疑問をもち、連合町内会の方々にお話を聞いた。

- 轟木地区は、自動車免許を返納した高齢の人たちが増えてきている。
- 買い物や病院などへ出かける人たちは自家用車がないと不便である。
- 朝は、通学にバスを使う高校生がいるが、バス停までの距離が遠い。
- 目の不自由な人もバスを利用して、遠くのバス停まで白杖を使って歩いていることもある。
- バスの本数が近くの地域と比べて少ない。
- バス停を新しく設置することとバスの本数を増やすことを町内会として市役所をお願いすることにした。
- どの時間帯の希望が多いか調べるために、対象になるすべての家庭にアンケートを実施して、集計した。
- 新しいバス停の近くにバスの回転場をつくるために、土地の所有者の人をお願いをした。
- 市役所には15回以上お願いや相談をしに行き、地域の要望を聞いてもらった。
- 4月からは、バス停が新しく増え、平日や休日の本数も大幅に増えることになった。



わたしたちの学校の周りにある公共交通機関の中から、JRと市営バスについて詳しく調べることにした。JRの取組については、実際に八戸駅に行き見学したり説明を聞いたりした。市営バスの取組については、FAXで質問に答えてもらった。

2 公共交通機関と環境

(1) JRの環境に対する取組 ※JR東日本 田中さん

- 東北新幹線は電気で走行している。→環境を汚さない。
- 電気は、火力発電だけでなく環境にやさしい水力発電で発電した電気も利用している。
- 燃料を少なくするために、車両の素材を変えて軽量化している。
- 線路沿いに整備されている鉄道林は、雪や風から守る防災だけでなく、二酸化炭素を吸収する役割もしている。
- 他にも、環境を守るために協力してさまざまな技術を活用している。



(2) 市営バスの環境に対する取組 ※八戸市営バス 矢口さん

- 排出ガスを削減するために、国の厳しい基準をクリアした低排出ガス車を購入して走らせている。
- バスは、すべて軽油を使用している
- すべてのバスにアイドリングストップ機能がついていて、エンジンをつけていても、バスが止まると勝手にエンジンが切れるという機能がついている。

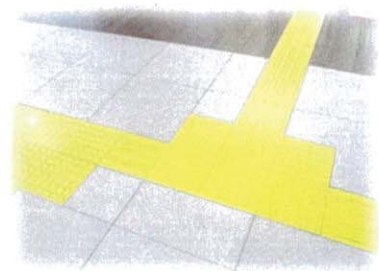
(3) 学習後の感想

- ぼくは、この学習をして、バスと新幹線には、それぞれのよさがあるって違うということを知りました。バスは環境をよくするために軽油を燃料にしている、新幹線は電気を使って走行しています。どちらも環境を守るために燃料を考えているなあと思いました。他にも、バスと新幹線には、それぞれの工夫が詰まっていて、それぞれのよさを知ることができました。(杉木獅恩)
- 交通環境学習で、エコについて知り驚きました。発電は、自然の力を使う発電がたくさんありました。バスは、まだ水素には取り組んでいないようですが、低排出ガスバスを使っていると知り、もっと公共の乗り物に乗ってみたいくなりました。(浜 和士)
- この学習を通して、新幹線とバスの工夫を知ることができました。新幹線には、工夫がいっぱいあって、安全や環境のことに取り組んでいるのがわかりました。バスの燃料は、軽油を使っていることがわかりました。バスは低排出ガスを使っていることがわかりました。(鈴木真周)
- 環境に対してどのような工夫をしているのか、また、どのように取り組んでいるのかがわかりました。バスや新幹線は、環境を守るための工夫をして理想を実現させていました。わたしも、まずは小さいことから環境のことについて考えを出し、呼びかけていきたいです。(竹井優奈)
- バス会社が取り組んでいる環境問題について、ぼくにもできることは、公共の乗り物にたくさん乗ることです。公共の乗り物に乗ることで、一度にたくさんの方が乗って移動するので排出するガスの量が減ると思ったからです。これからは、出かけるときなどには、バスを利用していきたいです。(鈴木駿弥)
- この勉強を通して、新幹線とバスの工夫を知ることができてよかったです。エネルギーの使う量をできるだけ少なくするためにガソリンではないものを使っていました。バスでは、排出ガス削減のために低排出ガスを使っていました。そして、全車にアイドリングストップ機能をつけているそうです。わたしも環境に優しくできるようにバスをたくさん使うようにしたいです。(鈴木妃那)

2 公共交通機関と福祉

(1) JRの福祉に対する取組 ※JR東日本八戸駅 副駅長 田中さん

- 新幹線には、車いすの人のために広くスペースをとっているところがある。また、扉を大きくしているところもある。
- 車いすでも駅の構内を移動できるようにバリアフリーになっている。
- 車いすの人が新幹線に乗るときには、スロープをつけてくれる。
- いろいろな人に対応できるように、タブレットに細かいマニュアルが入っている。
- 案内図やトイレ、券売機、通路など、たくさんのところに点字がある。
- 列車がホームに近づいていることを知らせる音もある。



(2) 市営バスの福祉に対する取組 ※八戸市営バス 矢口さん

- 耳が不自由な人が乗っている場合は、運転手さんが筆談で対応している。
- 115台の全車にスロープをのせています。
- 目の不自由な人がバス停の近くにいれば、車外マイクで行き先を伝える。また、バスには盲導犬も乗せることができる。
- 全車115台のうち81台が乗り口に段差がないノンステップバスになっている。
- お年寄りや妊婦、体が不自由な人のために、乗り口付近に優先席を設置している。また、アナウンスで席を譲るようにお願いしている。
- 他にも、こういった状況でも対応できるように運転手が作成したマニュアルを装備している。

(3) 学習後の感想

- 新幹線とバスの学習をして、優先席を設置したり車椅子の人のためのスロープを用意してくれたり、いろいろな人たちへの対応の仕方を工夫していることがわかりました。(鈴木教介)
- この勉強をして、バスや新幹線にたくさんの工夫があることを知りました。おばあちゃんと乗るときには、いろいろな工夫があることを教えてあげたいです。また、バスや駅で困っている人がいたら、声をかけてあげたいです。(レイク心リラ)
- バスや新幹線で体が不自由な人への対応の仕方は、車椅子の方のためにスロープをつけてくれたり、扉を大きくしたりしているなどの工夫があることがわかりました。(田嶋果歩)
- 新幹線には目の不自由な人のために案内図やトイレ、通路などに点字がたくさんあることがわかりました。轟木に住んでいるどんな人たちでも便利に公共の乗り物を利用できるように、ぼくも声をかけたりお手伝いをしたりしたいです。(木村泰嘉)
- 新幹線やバスには様々な福祉の工夫がありました。それに、新幹線では、どんな人にも対応できるようにタブレットで細かなマニュアルがあることを知りました。みんなが安心して利用できるようにしているのがすごいと思いました。(鈴木彩花)

3 公共交通機関と政治の働き

(1) JRの福祉に対する取組 ※JR東日本八戸駅 副駅長 田中さん

- 八戸駅は「尻内駅」だったが、人々の願いによって新幹線ができることになり、平成14年に「八戸駅」として開業した。
- 八戸駅は、1日に2725人もの人々が利用している。
- 駅名は、市町村などの自治体と相談して決めることもある。
- 駅と新幹線の整備のために4565億円ものお金がかかっている。
- 新幹線の名前は、一般公募をして、JRが決定している。



(2) 市営バスの福祉に対する取組 ※八戸市営バス 矢口さん

- バスの運行コースをきめるときは、便利な中心街を基点にしてつくる。駅や観光地、学校などに走らせている。地域の要望をもとにルートを検討することもある。
- バス停は、交差点や住宅、店舗の出入り口から遠い場所で、警察の人に道路の特色に合わせてどこに停留所が設置できるか聞き取りを行った上で決めている。
- バスの購入代金や赤字路線の維持のために、八戸市から補助金として税金を使っている。
- バスの本数は、利用状況や他の公共交通機関との調整で、時間帯や目的に合うように年度ごとに変更している。

(3) 学習後の感想

- ぼくは、今回の交通環境学習で新幹線やバスについて、それぞれの工夫や政治の働きとの関わりについて深く知れました。また、公共の乗り物は、人々の願いと深く関係していることが分かったので、ぼくもたくさん利用していきたいと思いました。(谷地寿太)
- 今回の学習で、地域の人たちや駅の方、バス会社の方から話を聞いて、駅やバス停を決めるには人々の願いが深く関わっていて、たくさんの人たちが協力してやっているととてもすてきだなと思いました。ぼくもたくさん公共の乗り物を使いたいです。(鈴木怜)
- 今回の学習で、公共の乗り物は、地域の方々の意見や願いと関係していることを知りました。また、たくさんの人たちが協力することが大切だということに気がきました。これからは、地域にある乗り物を大切にしていきたいです。(鈴木颯太)
- わたしたちの轟木では、地域の人たちの願いが市役所の人たちのおかげで実現されたことを知りました。また、関係している人たちの努力の大変さにも気がきました。これからは、わたしも地域のために利用したいです。(鈴木結花)